



MODEL : OM-225

## ワンマンブリーダー（負圧式）取扱説明書

この度は、OM-225：ワンマンブリーダー（負圧式）のお買い上げ誠にありがとうございます。

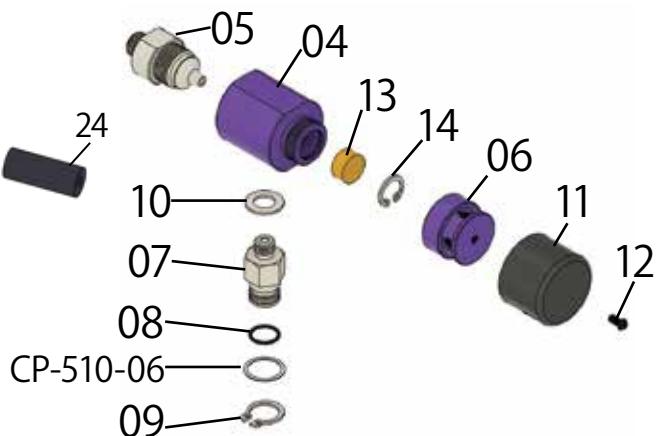
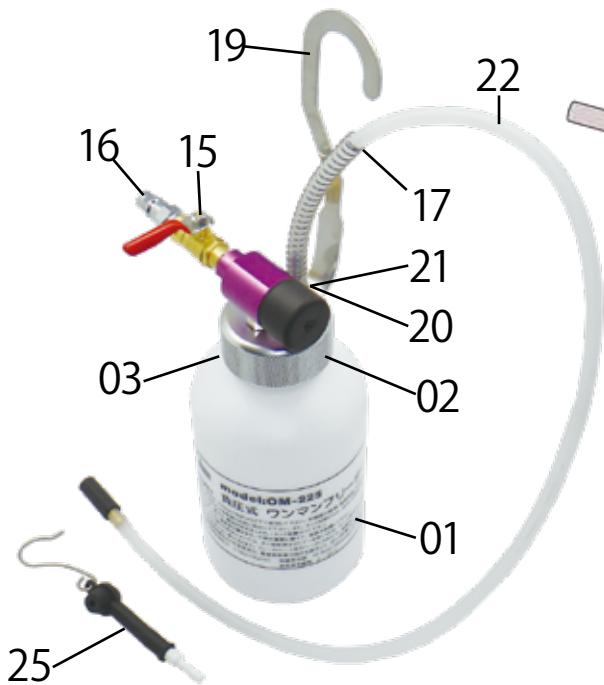
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、  
ご理解の上ご使用くださいますようお願い致します。

## 【適応】

オートバイ～小型トラック程度



## 【各部名称】



| 図番 | 商品名           | 図番        | 商品名              |
|----|---------------|-----------|------------------|
| 01 | タンク (1ℓ)      | 14        | Cリング             |
| 02 | タンクキャップ       | 15        | コックバルブ           |
| 03 | ゴムパッキン        | 16        | カプラー             |
| 04 | ジェネレーター本体     | 17        | ホーススプリング         |
| 05 | ノズル           | 19        | ステンレスフック         |
| 06 | キャップ          | 20        | 座金 M10           |
| 07 | ジェネレーターホース口   | 21        | 取り出し口 (延長パイプ付)   |
| 08 | Oリング S-10     | 22        | シリコンホース (4 x 8)  |
| 09 | Cリング          | 23        | ホース口金具           |
| 10 | アルミパッキン       | 24        | ホース口             |
| 11 | ゴムキャップ        | 25        | L型ホース口           |
| 12 | M3 六角付きボタンボルト | CP-510-06 | M12 ウエーブワッシャー    |
| 13 | メッシュフィルター     | 01B       | スタビライザー付タンク (1ℓ) |

## オプション部品



型式：OM-225-01B  
品名：スタビライザー付  
タンク (1ℓ)

新たに追加されたスタビライザーにより、  
タンクの耐用年数が伸びます！

## 【※使用上の注意※】

- ・供給エアー圧力は、0.7Mpa (7Kgf/cm<sup>2</sup>) 以下で使用してください。
- ・廃油は、タンクの8分目を超える前に処分してください。
- ・タンクを揺らしたり傾けるとサイレンサー部より廃油が吹き出しますのでご注意ください。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めますのでご注意ください。
- ・ホース内のフルードから気泡がいつまでも消えないことがあります。  
その時は、ブレーキパーツ用ラバーグリスなどで隙間をシールしてください。
- ・ゴム部品、ホース部品は消耗品です。
- ・使用温度範囲：0°C～60°Cです。

## 使用方法



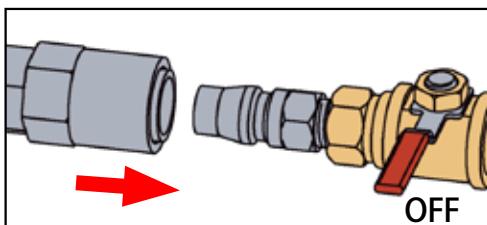
▲上図は OM-213 を使用

リザーバータンクが空にならないように自動供給器をセットします。

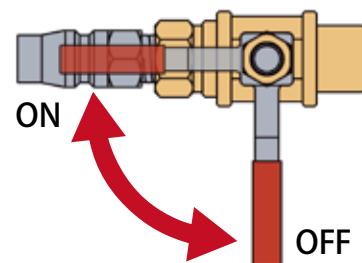


### ※用意するもの

- ・ブレーキフルード
- ・自動供給器
- ・エアーコンプレッサー
- ・スパナ

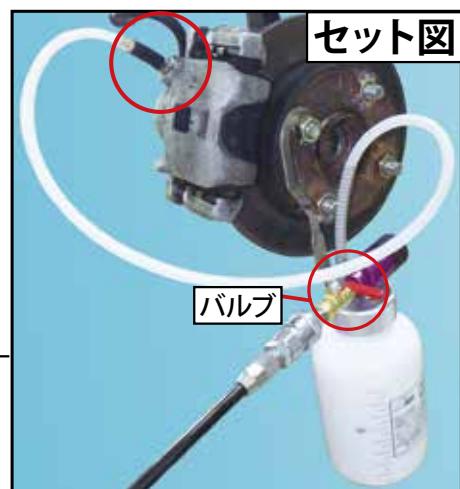


バルブを閉じたままエアーを繋ぎます。  
エアー圧力は 0.5 ~ 0.7Mpa



ブリーダープラグにホース口を差し込みます。  
プラグを "1/2 回転" 程度緩めます。

マスター缸が空の時は  
予めブレーキペダルを  
数回踏んでフルードを送り込みます。



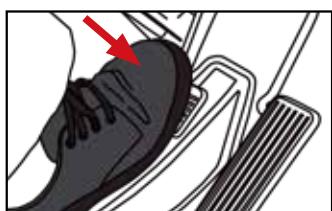
セット図



バルブ(図番 15)を開いて真空引きを開始します。  
数秒ごとにブリーダープラグを開閉してエアー抜き作業を行います。



最後にバルブ(図番 15)を閉じ気味にしてから、  
ホース口を強く押し当ててエアー抜き完了の確認をしてください。



各ホイールシリンダーのエアー抜き完了後、  
ブレーキペダルを数回踏みこんで  
踏み代が出ていれば作業完了です。

## トラブルシューティング

### いつまで経ってもエアーが抜けない・ホース内のエアーが消えない場合

- ブリーダープラグから負圧でエアーバッキングを行う場合、ゆるめたブリーダープラグのネジ部からエアーが混入します。
- これは負圧でエアーバッキングを行う製品すべてに起きる現象ですが、エアーバッキングが完了しているか見極める方法があります。

ブリーダープラグのネジ部にラバーグリスを塗ってください。



- Ⓐ 足で踏む加圧式と異なり、ホース内が負圧になっていると  
気泡が大きく見えます。
- Ⓑ 負圧式の場合、ピストンカップが劣化しているとカップから  
エアを吸ってしまうことがあります。

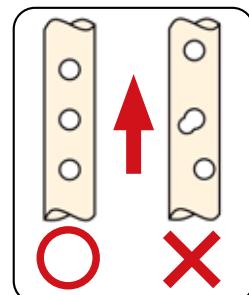


### 3. それでも気泡が消えない場合は以下の方法を試します。

- コックバルブ（図番 15）を少し閉じて負圧を弱めます。ホース内の気泡の流れを見てください。
- ホースを軽くつまんでホース内の気泡の流れを見てください。
- 一旦ブリーダープラグを閉め、再度プラグを開けた時のエアの流れを見てください。

気泡の大きさが規則的に流れている場合はエアーバッキングが完了しています。

大小の気泡が不規則に出てくる場合はまだブレーキラインにエアが残っています。



作業完了後は必ずブレーキ操作により踏み代を出してください。

その他のトラブルにつきましては以下をご参照ください。

| トラブル現象                     | 点検項目   | 解決方法   |
|----------------------------|--|--|
| フルードが出ない                   | ・負圧を発生させて、吸引ホースを指でふさいでも<br>メーターの針が動かない             | ホースの亀裂確認<br>バキュームゲージで確認<br>(空気圧 0.6Mpa で -60kPa)               |
|                            | ・ブリーダープラグ側が詰まっている                                  | ブリーダープラグの穴を掃除する<br>ブリーダープラグを交換する                               |
| フルードの出る量が少ない               | ・車両により配管が長い場合があり、その抵抗で<br>吸引できるフルード量が減少する事がある      | 車両のブレーキシステムを確認   |
|                            | ・後輪側と前輪側では吸引量に差が出る                                 | 出にくい場合はペダルを踏む<br>(マスターシリンダーのリターンポートを確認)                        |
|                            | ・トラック・バン等はプロポーショニングバルブが<br>装備されていて、かなりの抵抗となる       |  |
|                            | ・ハイドロブースター車等のブレーキシステムでは通常の<br>エアーバッキング作業ができない場合がある | 整備要領書を確認   |
| 負圧が発生しない                   | ・エアーパーツが足りない                                       | 0.5 ~ 0.7Mpa のエアーパーツが必要です。                                     |
|                            | ・ホースやタンクに亀裂  |  |
|                            | ・タンク結合部のパッキンが劣化している                                | 修理を依頼してください。   |
|                            | ・負圧発生装置が破損している                                     |  |
| タンクが凹む                     | ・エアーパーツ<br>・フルード油温が高い                              | エアーパーツは 0.7Mpa 以下<br>フルード温度 60°C 以上の時は冷ましてから<br>使用する (タンク変形防止) |
| サイレンサー部(先端)から<br>フルードが噴き出す | ・タンクにフルードが満タン                                      | フルードはタンクの8分目まで溜まつたら<br>捨ててください。                                |
|                            | ・作業中に本体を倒してしまった                                    | ジェネレーター内部に入ったフルードを水で<br>すすぎ、よく乾かしてから再度使用<br>吊り金を使用する           |

※修理につきましては販売店から弊社までご依頼ください。